

令和元年度の月星会活動 会長総括

感謝・お礼、そしてエールを！



お蔭様で令和元年度の行事等もすべて終わり、任期が終わろうとしています。

執行部をはじめ、各委員長、相談役、会員の皆様方、そしていつも見守って下さった臼井日出男先生。皆様のお蔭で、私のような若輩者でもなんと

とか無事に会長職を務めあげることができました。あらためて御礼申し上げます。

会の現状を見ますと、会員数は一進二退くらいのペース。ゆるやかな減少傾向の中、どうにか踏ん張っています。最終年度は2名の新入会員を迎えることができ、とても嬉しく思っています。

4つの委員会の委員長は緊縮財政の中、創意工夫をして委員会を盛り上げ、会運営に多大なる貢献をしてくださいました。

毎月の役員会には相談役も含め役員が10～15名、貴重な時間を費やして会のためにご協力いただきました。

コロナ禍により日常のあらゆる「当たり前」が当たり前でなくなった今、あらためてすべての皆さんとこれまでの活動に感謝いたします。

月星会の一番の魅力はどんな時も「人」です。そしてその「人」と「人」とが触れ合うことで様々な化学変化を起こし、絶妙なスパイスが効いているのがこの会の魅力だと思います。

そう考えると、人が接することができない昨今は本会にとっても大きな痛手です。その痛手を負った中での次期へのバトンタッチとなります。

次期会長は誰もがご存知の臼井正一さんです。

「若手」と呼ばれる時代を経て培った経験をもとに、臼井新会長が会にさらなるスパイスを加え、深みがあり、それでいて新鮮・斬新な味付けになることと思います。

その存在は常に周りを明るく照らし、その周りからの振り返りでさらに輝く……臼井新会長にぴったりな表現だと思いませんか？この臼井新会長にバトンを渡せることは私にとって本当に名誉なことです。

昨年度の会長方針で、「……身の回りで当たり前だったことが、気づいたら大きく変わってってしまうような予感もします」と、何の気なしにお伝えしました。

現実はその以上、非常に厳しいものでした。本業自体が

INDEX

令和元年度	
月星会活動 会長総括	1
委員会活動 委員長総括	1
【特別寄稿】コロナ禍に思う	2

大変な状況の方も多いと思います……それでもなお「愛される月星会」～先人が積み上げて下さった30年の歴史ある会～に、「変化」というスパイスを躊躇なく加え、この会をさらに味わい深いものにしていただきたいと思います。そして私も変わらずそのスパイスの一つでありたいと願います。

本当にありがとうございました。

【追悼 (2017.6～2020.5)】

横田 昇さん、鶴川光一さん、長谷川 洋さん、穴倉龍子さん、田那村 宏さん 永年に渡り、月星会を支えていただき本当にありがとうございました。

令和元年度の委員会活動 委員長総括

■例会委員会



月星会に入会して間もない私が、会の変遷すら知らないのに例会委員長を1年間務めさせていただきました。

年間のスケジュールや予算などを考慮しながら、いかに出席率を高められるかが一番むずかしかったと思います。

例会委員の皆様、特に大先輩である産方副委員長からは、大まかな流れ及び細かい留意点を含めて沢山教えていただきました。毎月の卓話講師の段取りもなかなか上手く進まないこともありました。

令和2年に入ってから、新型コロナウイルス感染の波が押し寄せ、日本列島はその対策に追われることになりました。

月星会も“どこ吹く風”とはいかず、2月の例会をなんとか開催したあと、3月からはコロナ感染の対策のために例会等の活動が休止となりました。残念ながら、その状況は現在も続いております。

例会委員会としては思うように例会を開催できないもどかしさがありますが、無事に収束したあとに次年度の例会委員長に思いを託したいと思います。

皆様1年間ありがとうございました。

委員長 中島美香

■研修委員会



令和元年度は、2回の研修会を11月と3月に行う予定でした。

11月は、作家神渡良平氏をお招きして「志は苦境を通して磨かれる」と題し、すし銚子丸の創業者、故郷地速男氏とカンボジアで地雷撤去を17年間し続けている高山良二氏のお話

を通して人間学を磨き、経営や人生のヒントとなる講演をしていただきました。

3月の研修会は「ほめる達人協会理事長・西村貴好氏」の講演を、木下会長のご尽力により参加者100名ほどの規模で開催予定でした。しかし今回、新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策のために断念せざるを得ませんでした。多くのお声掛けを申し上げた方々には残念な思いをさせてしまい申し訳ない気持ちでした。

次年度の小川委員長のもと、今年度の分を上乗せした研修会の開催となるでしょう。

委員長 吉田光一

■親睦委員会



令和元年度、親睦委員会では皆様の情報交換や交流を図ることを目的に以下の催しを開催しました。

◆親睦旅行 9月7日(土)～8日(日)
南伊豆・弓ヶ浜温泉

◆ボウリング大会 10月26日(土)

◆新春の集い 1月25日(土) ホテル

グリーンタワー幕張

親睦旅行では伊豆の海の恵みに舌鼓をうち、ボウリング大会では好プレー珍プレー続出の和やかな時間を楽しみ、新春の集いでは沖縄舞踊を堪能・・・と、それぞれ趣向は違いましたが、いずれの会も大いに盛り上がりました。春の日帰りバスツアーにつきましては、新型コロナウイルスの影響を鑑みて中止と致しました。通して至らぬ運営ではございましたが、皆様のご協力により無事終えることが出来ましたこと、改めて御礼申し上げます。

委員長 早野泰広

■広報委員会



今年度、広報委員では会の行事報告を中心に、白井先生の自伝や会員企業訪問などを加えてお届けしてきました。

ただ、昨秋の台風被害では予定していた取材が延期になったり、新型コロナウイルスの影響で会の行事が中止や延期となったりするなかで、予定通りに記事を作成することがとても難しい1年でした。

3年間、至らない委員長を支えてくださった奥平さん始め、広報委員の皆さんにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

委員長 永田洋子

特別寄稿

コロナ禍に思う

会員の皆さまには、如何お過ごしでしょうか。

私はここ2ヵ月、「ステイ・ホーム」で、もっぱら自宅に蟄居して、目下、池波正太郎著の「鬼平犯科帳」全24巻を読み返しながらか過しています。

●“歴史に学ぶ”

5月14日、緊急事態宣言が、対策が引き続き必要な13都道府県を除いた34県で一斉に解除されました。欧米諸国と比較して日本の感染率・死亡率が格段に低いのは、我が国の優れた国民性として誇るべきものです。本日、テレビ番組で約百年前に世界中で大蔓延した「スペイン風邪」に関する討論会を観ました。



なんとその蔓延の状況や、混乱の有様が驚くほど、今回のコロナ禍とそっくりな状況でした。私がスペイン風邪禍で注目したのは、今後、来るであろう感染第二波の方が第一波よりも大規模なことです。経済のことを考えるといつまでも緊急事態を続けることはできませんが、また大蔓延の恐れもあることを先例に学ぶことが必要です。

●“憲法改正で緊急事態対応を”

今回の新型コロナウイルス感染者の対処法では、日本は他の欧米諸国とは際だって異なっています。日本は感染者数が少ないし、死亡者も少ない。医療崩壊を防ぎつつの対処で正しいと思うが、もう少し対策にスピード感がほしかった。特に医療現場で苦闘している医療従事者の医療マスクや感染防具が払底して感染の危機に晒されている医療現場の状況には、涙が出る思いです。

一方、国会では相変わらず憲法改正問題は店晒しだが、今回、一部のパチンコ店のように休業要請を無視する業者や違反者を見て、店名公表などでその効果が疑問視されることを考え、更に厳しい緊急状態が発生して都市封鎖をせざるを得ない状況が発生することを予測するならば、緊急時の対処を国の責任と権限で毅然と対処しうるように憲法ではっきりと定めておくべきだと思います。

●最後に一言

歴史を辿ると、中世のペストに始まるウイルスとの闘いは人類の宿命です。この敵は、時に変異をして、隙あらば突然襲ってきます。これから幾つものウイルスや地震災害等と同時に闘うこともあります。一日も早くワクチンを開発し、この恐慌を勝ち抜けるように、“コロナウイルスに罹らない、うつさない”生活習慣を心がけ、絶対に負けない強い決意と忍耐をもって闘い抜いていきましょう。

白井 日出男